

4歳児 年間指導計画

		I 期(4月～5月上旬)	II期(5月中旬～7月)	III期(9月～10月上旬)	IV期(10月中旬～12月)	V期(1月～3月)
子どもの姿		・進級したことに喜びを感じ、喜んで登園してくる子どもが多い。一方で、新しい環境や保育者に不安感や緊張感のある子どももあり、保護者と離れにくい様子や口数が少ない様子、周りの友達を見ている様子が見られる。 ・身近な環境に興味や関心をもち、それを自分の遊びに取り入れて楽しんでいる。新しい環境に刺激を受けて、やりたいことを見つけ、保育者に手伝ってもらいながら実現させることを書んでいる。 ・保育室内の新しい玩具や素材、広い園庭にある遊具など、目新しいものを使って遊び始める子どもが多い。一人で黙々とやりたいことを見つけては取り組む子どもや同じ場に居合わせたもの同士で遊ぶ子ども、元々クラスが同じだった期の合う友達と一緒に遊ぶ子どもなど、人のかかわりも人それぞれである。	・年中組での生活の仕方や流れがわかり、できることを自分なりに考えて行動したり、みんなと一緒にする活動に気持ち向け、楽しんで参加したりしている。 ・自分のしたい遊びを見つけて取り組む中で、自分なりに考えたことや思いついたことをやってみる姿が多くみられる。遊びの中で自分なりに思いをもち、じっくりものやことに向き合い、考えたり工夫したりしながら遊びを楽しんでいる。 ・年少組のときの気の場合友達との関係を基盤に、徐々に年中組になり初めて同じクラスになった友達や年少組の時とは異なる友達のかかわりが増え、互いの様子が少しずつわかってきて、親しみをもち、一緒にすごすことを楽しんでおり、人間関係の広がりが見られる。	・夏休み明け不安定な様子の子どももいるが、笑顔で登園し、元気に友達や保育者とあいさつをかわしたり、登園後の準備をスムーズに終え自分のしたい遊びを見つけ、意欲的に遊び始める子どもが多い。 ・自分のしたい遊びの中で、思いをより強くもって遊ぶようになり、その中でより難しいことに挑戦しようしたり、もっと面白くしようとて、自分なりに考えたやり、園内にある様々な環境に働きかけたり、取り入れたりするようになる。思いが強くなったことで、「どうしたらうまくいくだろう」と粘り強く取り組む場面も見られるようになってくる。 ・気の場合友達と一緒に遊ぶことがより楽しくなってくる。気の場合友達だからこそ、友達がしようとしていることがわかって、力を合わせてたり、場を一緒につくったり、声をかけたりすることができ、互いに通じることが嬉しいうだ。	・クラスでの共通の話題や簡単な目的をわかり、みんなと一緒にする活動に一人一人が思いをもち楽しみながら参加している。 ・思いをもって繰り返し遊んでいた子どもたちから「もっとこうしたい」という思いが見られるようになり、自分なりに目的をもち、それを実現するために考えたり、工夫したり、繰り返しやってみたりして取り組んでいる。 ・同じ場にいる友達同士、相手がしていること、やろうとしていることがわかり、力を合わせたり、一緒にしたり、相手に合わせて行動したりする姿が多くみられる。また、生活の中で、同じ場にいる友達や近くにいることが多い友達と顔を見合わせたり、やりとりしたりしている。	・友達の姿に影響を受けたり、「やってみよう」と気持ち前向きになったりすることで、自分がかまで消極的だった遊びや経験が少ないことに取り組む姿が増えてくる。楽しみながら継続して取り組むことで、できるようになることが増え、できた喜びや充実感が自信につながっている。 ・自分なりに感じたことや考えたことなど意見を出し合って、やってみる中で、また新たなことに気づき、やってみようとしている。 ・目的をもち、その実現に向けて友達と一緒に考えたり、工夫したりしながら遊びを進めることを楽しんでいる。友達の言葉や行動を受けて、自分なりに新たなアイデアが生まれたり、友達とのやりとりの中で目的をもち、その実現に向けて気の場合友達と一緒に考えたり、工夫したりしながら遊びを進めることを楽しんでいる。

地球の中で		【世界を広げる】 【つながりに気づく】 【参加・参画】				
ねらい	基盤となる力	○興味関心をもって様々な環境（ひと・もの・こと）にかかわる／園生活を楽しむ ○園庭や地域の自然に親しむ／五感を使い、さまざまな感覚を味わう ○喜んだり、泣いたり、怒ったり、さまざまな情動を体験する／気持ちや思いを他者と共有する（共感）				
	安心・安定	○園にかかわるすべての人が多様なままに受け入れられ大切にされて過ごす ○園という環境（ひと・もの・こと）に慣れ親しみ、安心して過ごす ○一人ひとりのものの見方や考え方を大切にされ、安心して表現する ○くつろいで過ごし、心身の疲れが癒される				
	安全・健康	○生理的欲求が、十分に満たされる ○のびのびと体を動かし、さまざまな運動を楽しむ ○保育者とともに病気の予防や基本的な生活習慣の形成に取り組み、健康に気をつけて過ごす ○危険な場所、危険な遊び方、災害時などの行動の仕方がわかり、保育者とともに安全に気をつけて行動する ○自ら健康で安全な生活をつくり出すようになる				
保育・教育・人とともに	自分から	○新しい環境での生活の仕方を知り、自分達で生活をを進める喜びを味わう。	○自分の好きなことや得意なことを見つけ、充実感や満足感をもって行動する。	○いろいろなことに挑戦し、充実感や満足感を味わう。	○遊びや生活を自分達で進める満足感を味わう。	○大きくなった自分を自覚し、様々なことに期待をもって意欲的に取り組む。
	創造する	○新たな環境で自分のしたい遊びを見つけ、したいことを実現する喜びを味わう。	○自分なりに比べたり関連づけたりして遊ぶことを楽しむ。	○自分なりに目的をもって、考えたり工夫したりして遊ぶことを楽しむ。	○目的に向かって予測したりじっくり考えたり工夫したりすることを楽しむ	○自分たちの考えを深め、実現させる喜びを感じながら遊ぶ
	人とともに	○様々な友達がいることに気づき、一緒に過ごす楽しさを味わう。	○気の合う友達とわかり合って遊ぶ面白さを感じる。	○いろいろな友達の思いや考えに気づく。	○気の合う友達と目的を共有し、考えを出し合ったり協力したりすることを楽しむ。	○友達と共通の目的や思いをもって協力して取り組もうとする。
内容		・生活に必要なことを知り、自分達でしようとする。 ・いろいろなクラスの友達と遊ぶ。 ・昨年度からつながりのある友達と安定して遊ぶ。 ・自分なりに安心できる好きな遊具や居心地のよい場所を見つける。 ・保育者や友達に自分のしたいこと、してほしいことを言葉で表現し、聞いてもらう喜びを感じる。 ・保育者や友達と一緒に歌ったり、動いたりすることを楽しむ。	・砂・土・水に触れ、解放感を味わいながら全身を動かして遊ぶ。 ・友達の様子を見たり、真似たり、刺激を受けて自分なりにやってみようとする。 ・遊具や用具を大切にしてみんなで使い、責任を持って片付ける。 ・身近な生き物や草花や実などを見たり触れたり遊びに取り入れたりして大切にしようとする。 ・色や形、大きさや長さ、量などを比べて違いに気づく。 ・自分の思ったことや考えたことを言葉で表現しようとする。 ・感じたことや考えたことを伝え合うことを楽しむ。 ・クラスの友達とみんなで集まって話をする。 ・水遊びやプール遊びで全身を使って気持ちを解放させて遊ぶ。 ・気の合う友達とイメージを共有して遊ぶ。	・新しいことに挑戦し、充実感や満足感を味わう。 ・走ったり、投げたり、跳んだり、思い切り体を動かして遊ぶ。 ・グループやクラスでの活動を通して役に立つ喜びを感じる。 ・科学に関わる用語を使い、その考え方に親しむ。 ・遊びや生活の中で数を数えたり、長さや大きさをくらべたりすることに関心をもつ。 ・友達や教育実習生の話に関心をもって聞くこととする。多様な人との関わり ・いろいろな表現の仕方に興味をもち、表現する楽しさを感じる。 ・クラスのみんなで力を合わせる面白さを味わう。	・様々な遊具や用具を操作し、存分に体を動かす。 ・思いを出し合って遊び、友達にもそれぞれの思いや考えがあることに気づく。 ・園外保育などで、数量・図形、標識や文字などに興味をもち、人や生活とのつながりを知る。 ・いろいろなことに自分なりの目的をもって取り組み、達成感や満足感を味わう。 ・自分の経験したことや思いや考えを相手にわかるような言葉で話そうとする。 ・歌ったり、体を動かしたり、楽器を使ったりして楽しむ。 ・身近な生き物に親しみをもち、生態に気づいたり世話をしたりする。	・自分でできるようになってきたことが増えてきたことを実感し、喜びを感じて自信をもつ。 ・危険な場所、危険な遊び方、災害時などの行動の仕方がわかり、安全に気をつけて行動する。 ・友達との関わりを深め、思いやりをもつ。 ・冬の自然現象に興味をもち、触れたり感じたり試したりして遊ぶ。 ・友達と気持ちや考えを言葉で伝えあい、言葉を使う面白さや便利さを知る。 ・友達と気持ちをそろえて、歌ったり、体を動かしたり、お話をしたりする楽しさを味わう。
ねらいの	生命の保持	○環境に配慮し、安全で快適な生活ができるようにする。	○夏季の保健衛生に留意し、活動内容を工夫したり室温を調整したりして暑い中でも快適に過ごせるようにする。	○気温や活動内容に応じた環境を整え、快適に過ごせるようにする。	○気温や活動に応じた衣服調整・室温・湿度・換気配慮し、健康に過ごせるようにする。	○室内の換気や加湿など流行性疾患の予防に努め、自分達で健康に過ごすための行動について考えられるようにする。
	情緒の安定	○1クラスの人数が増えることに配慮し、一人一人の子どもの気持ちを受け止め、信頼関係を築き、安心して過ごせるようにする。	○一人一人の子どもの気持ちを受け止め、意欲的に活動できるようにする。	○その子らしさを十分に受け止め、友達との関係の中での葛藤を経験するところを支え、安定できるようにする。	○保育者や友達と安定した関係の中で、満足感や達成感を味わい、意欲的に生活できるようにする。	○一人一人の成長を認め、自信をもって様々な活動ができるようにする。
環境構成◆援助 ▲		▲15人2クラスが1クラスになるので、進級した喜びや不安など、しぐさや表情などからも気持ちを汲み取りながら一人一人を丁寧に受け止め、安心感をもてるようにする。 ◆身支度や降園準備、給食準備や片付けなどの身の回りのことについて、方法や動線、指示などを工夫し、繰り返し伝えたり一緒にしたりしながら、少しずつ自分達で気づいてできるようにする。 ◆年少組の時にしていた遊びができるように用具を整えたり、遊びに誘ったりして環境が変わっても安心して遊びが始められるようにする。 ◆子どもの興味や関心に応じた環境を多様に用意し、一人一人が自分のしたいことを選んだり決めたりして楽しめるようにする。 ▲子どものつぶやきや思いを大切に、実現に向けて必要なものや方法を一緒に考え、実現していくことで、思いを実現する喜びを感じられるようにする。 ◆前年度からの仲間の繋がりを楽しみながら遊べるように、扱いやすく、遊びの拠点を作れるような遊具を用意しておく。	▲水や砂、季節の花や生き物などとの関わりを保育者も一緒に喜んだり楽しんだりし、身近な初夏の自然に興味をもってかかわりを広げられるようにする。 ◆比べたり関連づけたりして遊ぶことを楽しめるように掲示を工夫したり用具を用意したりじっくりと遊べる時間を確保したりし、保育者も一緒に比べたり関連づけたりしながら遊び、その面白さに共感する。 ◆遊具や用具をみんなで大切に扱うよう促したり、用具の数を調整したり、片付ける場所を整えたりすることで、自分達で使う用具や遊具を大切に扱い、責任をもって片付けることができるようにする。 ◆集まった時に遊びの話をする時には、感じたことや考えたことを話そうとする姿を認めたり、質問をしをわかりやすいように補ったりして言葉にできるように支え、自分の話が伝わった喜びや友達の話を聞く面白さを感じられるようにする。 ▲水遊びでは保育者も一緒に水を掛け合って遊び、全身を使って気持ちを解放してダイナミックに遊ぶ楽しさを感じられるようにする。 ◆プール遊びでは、プールの水深を徐々に深くし、少しずつ慣れながら、顔をつけたり浮かんだりすることにも自分なりにやってみようと思えるようにする。 ▲気の合う友達と自分の思いを出して遊ぶ楽しさに共感し、必要に応じてそれぞれの思いやイメージが伝わるように仲介することで、気の合う友達とわかり合って遊ぶ面白さを感じられるようにする。	▲縄跳びや鉄棒、巧技台など、少し難しいことに挑戦する遊びやいろいろな体を動かす遊びを保育者も一緒に楽しみ、時にはクラスのみんなで取り組む機会を作り、挑戦した気持ちやできるようなったことを具体的に認めることで、自分なりの満足感や達成感を味わえるようにする。 ◆遊びの様子を掲示したり集まった時には遊びの話をしたりすることでそれらをまねて新たに挑戦したくなったりやってみておもしろいという経験を重ねたりできるようにする。 ◆グループで一緒に遊んだり力を合わせたりする活動を取り入れ、少人数だからこそ一人一人が自分の意見を出しながら、仲のいい友達との関わりだけでなく、違う意見にも触れ、自分が人の役に立つ経験ができるようにする。 ▲子どもが興味をもって発見したのについて、さらに触れ合ったり、感じたり、特徴を捉えたり、考えたりするのに十分な時間を設け、一緒に図鑑やICTを活用して調べたりし、対話しながら科学的な用語を使ったり、環境を再構成したりして、興味関心を十分に広げ、科学的な考え方に触れ、親しめるようにする。 ◆体験したことを言葉や描画、動きなど様々な表現の仕方ができるように環境を整え、互いに見合うことで、いろいろな表現の仕方を楽しめるようにする。 ▲実習生と親しめるような活動を取り入れたりと、保育者も親しみをもって関わったりすることで、一人一人が実習生と楽しく遊べるようにし、多様な人とかかわる楽しさを味わえるようにする。 ◆運動会では、クラスのみんなで力を合わせるからこそ面白い競技を取り入れ、繰り返し楽しむことで、友達と力を合わせる面白さや全員でやり遂げた達成感や満足感を味わえるようにする。	◆自分達で遊びや生活をを進めているように、生活の流れや役割をわかりやすくしたり、自分達で声を掛け合っているように励ましたりする。 ▲気の合う友達同士が目的を共有して遊んでいる時には、見守りながら一人一人が思いや考えを出せるように支え、協力したり、思いや考えを出し合ったりして遊ぶ面白さを感じられるようにする。 ◆園外に出る機会などを生かし、標識や点字ブロックなどに気づけるように声をかけ、様々なコミュニケーションの手段があることを感じ、文字や標識が人と人をつなげる存在であることを知ることができるようにする。 ◆したい遊びのイメージが膨らむような遊具や用具を使いやすいように並べたり、必要な用具と一緒に探したりして目的に合わせて遊具や用具を選び、イメージしたことややりたいことが実現していく面白さを感じられるようにする。 ▲飼育している生き物や植物について、育て方や冬眠について調べたり相談したりしながら世話をすることで、飼育している生き物について関心を深め、冬から春にかけての長期的な視点で考え、自分なりの思いや考えをもちながら一人一人が責任をもって大切にできるようにする。	▲できるようになったことや挑戦しようとする姿、以前より工夫しているところや粘り強く取り組んでいる姿などを丁寧に認め、保護者にも伝えて認めてもらうことで、みんなに認められ、一人一人が大きくなったことを実感し、自信をもって日々を楽しめるようにする。 ▲雪が降ったり氷ができた時には、保育者も積極的に関わり、その不思議さや面白さを存分に味わえるようにする。また、氷ができる場所を比べたり、厚さや色、中に入れるものなど、保育者も一緒に試したり比べたりして工夫する面白さを感じられるようにする。 ▲保育者も科学に関わる用語や文字や数量などを使いながら一緒に予測して確かめたり試行錯誤を繰り返したりして、探求する面白さを感じられるようにする。 ▲お当番の仕事を増やしたり、年少組との関わる機会を増やしたりしながら、優しく接する姿や頑張っている姿を認めることで人への役にたつ喜びを感じられるようにする。 ◆なぜならやりとり、かるたなどの言葉遊びを楽しむ機会を作り、言葉でイメージしたり伝え合ったりする面白さを感じられるようにする。 ◆クラスの友達と、お話の登場人物になって話したり動いたりして遊ぶことを通して、対話の中で相手の発言を受け止め、反応しながらお話をつくっていくおもしろさや、クラスみんなでお話ををつくり上げていく満足感を味わえるようにする。 ▲クラスのみんなで歌ったり楽器を鳴らしたりお話をしたりすることで友達と気持ちを揃えて活動する楽しさやクラスの一体感を味わうことができるようにする。

食育	保護者への支援
・食材や調理名に興味をもって食べることができるように、給食のメニューを伝えたり、食材について話をしたりする。 ・野菜を育て、世話をしたり収穫した野菜を味わったりすることで、旬の食べ物やその生長に興味をもてるようにする。 ・楽しく食事をするためのマナーを伝え、みんなで気持ちよく食べられるようにする。 ・食材の旬について話をしたり季節ごとのメニューを食べたりすることで季節の食材に触れ、関心をもてるようにする。 ・食べ物の栄養や健康のつながりに気づけるように、話をしたり、絵本を見たりすることでいろいろな食材を食べようと思えるようにする。 ・調理するところを見たり野菜を育てたりすることで、生産者や調理する人などを知り、感謝の気持ちをもつことができるようにする。	・保護者と離れにくい子どもについては、保護者と十分に連携し、保護者にも安心してもらいながら、その子どもに合わせて少しずつ新しい環境に慣れていけるようにする。 ・健康状態や家庭での様子を把握し、偏食やアレルギーなどの配慮が必要な子どもについては、保護者とも話し合いながら対応する。 ・暑さにより体調を崩しやすい、水遊びやプール遊びもあるので、子どもの体調について、家庭との連絡アプリを活用したり、会話をしたりして互いに把握し、健康管理に努める。 ・子ども同士のトラブルは、発端の中で通る姿であるとともに、成長の機会であることを知らせ、理解を求めている。同時に何かあったときには保護者の心配を受け止めて、細やかに状況を説明する。 ・遊びや活動について愚談やホワイトボードなどで伝え、遊びや関心が家庭と園とでつながり、続いていくようにする。 ・子どもの成長の姿を具体的に保護者に知らせ、成長の喜びを共有できるようにする。